

滋賀県企業庁経営戦略(案) 概要

令和3年(2021年)3月10日(木)
土木交通・警察・企業常任委員会 資料2
滋賀県企業庁

1. 策定の趣旨

水道事業を取り巻く環境の変化

外部環境の変化

- 人口減少などによる水需要の減少
- 水源水質の変化
- 自然災害の激甚化

内部環境の変化

- 施設の老朽化による更新機会の増加
- 技術系職員の退職

SDGs
目標達成に
貢献



安全な水の安定供給および
地域産業の健全な発展に貢献するため、
健全な経営を将来にわたり確保する

中長期的な視点に基づく経営の基本計画

滋賀県企業庁経営戦略

計画期間:10年間(令和3年度~令和12年度)

2. 現状評価と課題

安心(水質):

評価 水道GLPを取得や水安全計画を策定による安全な水の安定供給に努めた。

課題 平成28年度のかび臭など新たな課題も生じており、水源情報の適切な把握や活性炭施設の導入が必要。

安定(施設):

評価 アセットマネジメント計画を策定し、耐震化や管路の更新に着手した。

課題 施設等の耐震対策、浸水対策の計画的な推進が必要。

持続(経営):

評価 健全経営(黒字)の維持に努めた。

課題 給水量の減少を見据えた施設規模の適正化や経営の効率化、人材の育成や技術継承への取り組みを進める必要がある。

3. 基本理念・基本目標

基本理念

信頼の水で、地域の未来に貢献します

基本目標

【安全】
安全で良質な水を
安定して供給します

【強靱】
信頼を支える強靱な
ライフラインを構築します

【持続】
社会の変化に対応した
持続可能な経営を推進します

4. 目標達成に向けた取り組み

(1) 安全

水道水源への対応

- 継続的な水源水質調査の実施、関係者との速やかな情報共有を行います。
- 効果的、効率的な維持管理による安定的な供給を行います。

水質管理の強化

- 水道GLPに基づく信頼性の高い水質検査技術の向上に取り組みます。

安全で安定した水の供給

- 水安全計画に基づく安全な水の供給システムによる浄水処理を実施します。
- 効果的、効率的な維持管理による安定的な供給を行います
- 異臭発生時には「かび臭対策マニュアル」により迅速かつ適切な対応を行います。
- 馬淵浄水場への活性炭処理施設の導入に取り組みます。

指 標	単 位	優位性	目標値	
			R7	R12
用水 水質基準適合率	%	↑	100	
用水 かび臭物質濃度水質基準比率の年間平均値	%	↑	75	
用水 苦情発生件数	件	↓	0	
工水 苦情発生件数	件	↓	0	

(2) 強靱

施設の計画的な更新

- アセットマネジメント計画に基づき計画的に耐震化等の事業を進めます。

水道施設の耐震化

- 吉川浄水場の新たな浄水施設の整備や各浄水場、ポンプ場の耐震対策工事、管路の耐震化を進めます。

施設の浸水対策

- 浸水被害が想定される施設への対策工事を着実に進めます。

バックアップ対策の充実

- 非常用発電設備の未整備施設への整備や老朽化した非常用発電設備の更新を進めます。

危機管理体制の強化

- 原子力発電所事故や南海トラフ地震の発生など想定される危機事象を的確に把握し、危機管理マニュアルや事業継続計画(BCP)の充実を図ります。
- 危機管理マニュアルに基づく災害・事故対応に備えた定期的な訓練の実施とともに、応援協定に基づく受水市町との合同訓練を実施します。
- 災害発生時に備え、応急給水資機材、復旧資機材の適正な管理を行います。

指 標	単 位	優位性	目標値	
			R7	R12
用水 浄水施設の耐震対策の進捗	箇所	↑	3	3
用水 ポンプ所の耐震対策の進捗	箇所	↑	6	7
用水 管路の耐震化率	%	↑	41.2	50.5
工水 管路の耐震化率	%	↑	15.6	26.8
用水 浸水対策の進捗	箇所	↑	6	6
工水 浸水対策の進捗	箇所	↑	4	4

戦略

- 災害リスクを的確に把握し、リスクに応じた施設・設備の強靱化を機動的に図る
- 地域に根ざした経営を行う公営企業として、地域経済の活性化に貢献する
- 水源環境を守り、良質な水の安定した供給に取り組む

(3) 持続

健全経営の維持

- 利用していただきやすい適正な料金の設定を行います。
- 新規受水企業の開拓に取り組むとともに、優遇措置の拡充を検討します。

経営の効率化の推進

- 水需要の減少などを考慮した施設、管路のダウンサイジングを検討します。
- 施設規模の適正化やエネルギー効率を踏まえた施設や設備の整備、更新による維持管理費の削減に取り組めます。
- 業務の効率化につながる新たな技術(AI、ICT)を積極的に活用します。
- 民間事業者のノウハウや技術の適切な導入を進めます。

地域経済の活性化への貢献

- 県内事業者への受注機会の拡大と県内生産資材の利用促進を進めます。

広域連携

- 受水市町との交流や連携を進め、広域連携については受水市町とともに必要性を含め検討します。

人材育成と技術継承

- 中堅・若手職員への技術継承、若手職員の育成支援に取り組めます。
- 知事部局等との人事交流などによる人材の育成を進めます。

環境に配慮した取り組み

- 省エネルギー設備の採用によるエネルギー消費量の削減と、再生可能エネルギーの利用促進を検討します。

- 浄水発生土、建設副産物のリサイクルなど環境負荷低減に取り組めます。

地域、社会の理解促進

- ホームページなどを通じた積極的な情報提供を行います。
- 浄水場見学、出前講座の充実による水道事業への理解促進を図ります。

指 標	単 位	優位性	目標値	
			R7	R12
用水 経常収支比率	%	↑	100以上	
用水 給水収益に対する内部留保資金の割合	%	↑	100以上	
工水 経常収支比率	%	↑	100以上	
工水 給水収益に対する内部留保資金の割合	%	↑	100以上	
共通 県内産バルブの使用率	%	↑	100	
共通 若手水道技術職員の資格取得件数	件	↑	4.0	4.5
共通 過去5年間のエネルギー使用原単位変化率対前年比	%	↓		-1
共通 浄水発生土の有効利用率	%	↑	100	
共通 水道事業見学者の理解度	%	↑	90	

5. 投資・財政計画

基本的な考え方

- 自然災害や老朽化に対応するため、アセットマネジメント計画に基づく施設整備事業を着実に実施し、施設の強靱化を図ります。
- 効率的な経営および適正な料金設定により財政基盤を強化し、経営を安定的に継続します。

収支見通し

(水道用水供給事業)

【収益的収支】

- 純利益は減少するが、黒字を確保

【資本的収支】

- 今後10年間で約416億円の投資を予定

◎主な投資計画

吉川浄水場耐震対策工事(H29~R4)

総事業費 96億円

管路更新工事(R3~R12) 154億円

浸水対策工事(R3~R4) 4億円

(工業用水道事業)

○彦根

【収益的収支】

- 令和9年度以降赤字になる見通し

(内部留保資金で調整)

【資本的収支】

- 今後10年間で約17億円の投資を予定

◎主な投資計画

管路更新工事(R3~R12)

彦根:6億円 南部:30億円

○南部

【収益的収支】

- 純利益は令和7年度に増加後、減少するが黒字を確保

【資本的収支】

- 今後10年間で約66億円の投資を予定

◎主な投資計画

管路更新工事(R3~R12)

彦根:6億円 南部:30億円

6. 計画の推進

毎年度、目標指標の達成度等について、PDCAサイクルに基づき評価を行います。5年後には総合的な評価を行い、必要に応じて見直しを行います。